



慶應義塾大学ビジネス・スクール

(株)伊勢丹

1992年4月、(株)伊勢丹人事部の中原人事企画担当付部長（女性）は頭を悩ませていた。当
5
社の主たる戦力である女性をいかに動機付けするかという問題に直面していたのであった。
中原部長は以下のように語っていた。

「当社は百貨店業という性格から、しかも同業他社と比較しても女性の比率が極めて高いと
いう特徴があります。そのためにこれまで女性の能力発揮を支援する諸制度を設けてきました。
10
制度的には各社の中でも整備されている方だと自負していますが、当社がすべての女性社員にとって働きがいある職場とするためにはまだまだ解決しなければならない課題がたくさんあるのです。特に問題なのは女性と一口にいっても、その志向や考え方、そして年齢
はまちまちで、これといった共通の決め手を打ち出すのが難しいのです。彼女等が求めるのは、働きがいある仕事でしょうか、給与でしょうか、昇進でしょうか、それとも他の道があるのでしょうか。そのような目標がないと彼女等の毎日の仕事も惰性に流され、当人も、周
15
囲も、そして会社も皆幸せとはいえなくなってしまうよう思うのです。」

伊勢丹の歩み

当社は1886年、東京神田の地に「伊勢屋丹治呉服店」として創業した。その後1924年には
20
関東大震災による店舗炎上もあり、呉服店から百貨店に業態を変更、1930年には神田が都心から離れるという意識から店舗を将来性ある新宿に求めることとした。同時に組織も株式会社化し株式会社伊勢丹を創立、「新宿の伊勢丹」がここに生まれた。

戦後しばらくは本館を進駐軍に接収されていたこともあったが、1953年接収が解除され、
昭和30年代（1955年～1965年）には単一店舗での売り上げ日本一や売場面積日本一になっ
たこともあり、百貨店業界の中で確固たる地位を確保するにいたった。
25

昭和40年代（1965年～1975年）には新宿だけではなく、自社店舗としては吉祥寺、立川、
松戸へ、同時に静岡には地元百貨店との提携により出店。海外にもホンコン、シンガポール

本ケースは、慶應義塾大学大学院経営管理研究科閑本昌秀教授の指導のもとに、同研究科博士課程廣石忠司がクラス討議の基礎資料として作成したものであり、経営管理上の適切または不適切な処理を例示しようとするものではない。なお、人名は原則として仮名である。

作成にあたっては、株式会社伊勢丹の経営トップの方々をはじめ、多くの社内の皆様から絶大なご支援・ご協力をいただいた。ここに記して御礼を申し上げます。（1993年4月）

5

10

15

20

25

30